

# 大熊町を 端から端まで ● 知りつくよう！

## ●第3回 大熊町役場



旧大熊町役場

勤め始めたのは昭和二十五年。当時は今の大野幼稚園の所に役場があつて、八人ぐらいの職員がいた。冬はすきま風が入ってきてとても寒かった。最初は税務課勤務だった。通勤はほとんどが歩き

### 大野村役場の頃

昭和三十一年に現在の農村改善センターの地に役場を新築し五十二年まで使用され、その後大野中学校跡地に昭和五十二年十二月に新築し現在に至っている。

（大熊町町史より抜粋）

で、集金に歩いたこともあつた、中屋敷地区では代表者が集めて持つてくれた。この頃、お金がないから穀類（小豆）で納めても良いかという農家の話もあつた。合併されてできた役場での印象的な仕事は企画開発課について、完成した時は感無量だった。

（井戸川俊正氏談）

書家である井戸川さんは館報「おくま」の表紙文字を書かれた。

## ふるさと 再発見

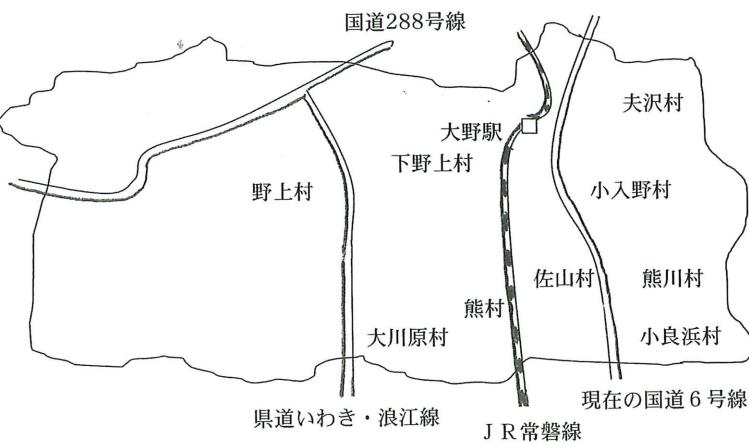
### 公共施設を訪ねて

## 大熊町役場の所在地変遷

明治二十二年（一八八九）四月一日、町村制の施行により、従来の大川原村・野上村・下野上村の三か村が合併して大野村が、また熊村（熊と佐山は明治十九年に合併）・熊川村・夫沢村・小良浜村・小入野村の五村が合併して熊町村が発足した。

その後昭和二十九年（一九五四）十一月一日、町村合併促進法のもとで、大野村と熊町村が合併して、二村の頭文字を取り大熊町となつた。

熊町村の役場は「熊字町十五番地」に設け、明治二十七年に「大字熊字塚の草四十五番地」に移つている。



## 大熊町のあゆみ

大熊町誕生（大野村・熊町村の合併により町制施行）

館報「おおくま」創刊号発刊

役場庁舎新增築落成

大熊町誕生十周年記念体育祭・敬老会挙行

国道六号線全線開通

大野駅に急行停車（常磐線前線電化開通）

明治一〇〇年記念式典挙行

大熊町町制施行一五周年記念式典挙行

昭和おくま創刊号発刊

県営坂下ダム完成

大熊町制施行二十周年記念式典挙行

福島県原子力センター・環境医学研究所落成

役場新庁舎にて業務開始

第三十一回県下消防大会において福島民報社より金ばれん授与

県民憲章の制定

大熊東工業団地造成完了

福島県栽培漁業センター完成

農村環境改善センター完成

大熊町町制施行三十周年記念式典挙行

保育所建設工事完成

スポーツセンター宿泊研修施設完成

二十一世紀の翼実施（第一回）

熊川鮭ふ化場建設工事完成

文化センター建設工事完成

第一処理場改修工事完成

特別養護老人ホーム落成式

図書館落成

総合体育館落成

在宅介護支援センター落成

保健センター落成

## 熊町村役場の頃

昭和二十四年頃から勤めた。

当時給料が少なく、職員になり手が無かつたり、すぐに辞める人

もいた。

村の産業は農業が主で出稼ぎの人も多かった。歩いて通勤した人が多く、やがて、自転車、バイク、

昭和四十年代から自動車へと代

り始めた。合併した直後、課ごと分散し

た。合併した直後、課ごと分散し

て仕事をした。女性は最初三人し

かなかつたので、

助け合っていた。

国民年金のスター

トの頃は、年金とい

うことが理解され

れずに、毎日、勧

誘に歩いた。すぐ

に加入してもらう

のはなかなか大変

だつた。でも、年

金が貰える時に

なつて、あの時勧

められて、加入し

てよかつたと感

謝されたことも

あった。

今思えば、いい

時代だったと思う。

（小林フジ氏談）



昭和29年合併時、旧熊町村職員一同

わつていつた。合併してすぐ、役場が出来るまでは一般住宅を借りて分散して職務に当たっていた。

（佐々木光雄氏談）

昭和二十六年に熊町村に勤めた。

役場に駐在所がついていた。

家庭的な職場で、皆仲良しだつ

た。合併した直後、課ごと分散し

て仕事をした。女性は最初三人し

かなかつたので、

助け合っていた。

国民年金のスター

トの頃は、年金とい

うことが理解され

れずに、毎日、勧

誘に歩いた。すぐ

に加入してもらう

のはなかなか大変

だつた。でも、年

金が貰える時に

なつて、あの時勧

められて、加入し

てよかつたと感

謝されたことも

あった。

今思えば、いい

時代だったと思う。